

平成23年度「校務の情報化に関するアンケート」調査結果

平成24年3月
群馬県教育委員会
義務教育課

【調査概要】

1 調査項目（※別紙アンケート用紙参照）

- 時間外勤務の実態と多忙感
- 校務支援システムの活用による効果

2 調査対象

- 校務支援システムが導入されている県内市町村立小・中・特別支援学校の教職員

※回答者総数 4,503人（9市町218校 ※小学校145校、中学校70校、特別支援学校3校）

- ・校種 小学校（2,826）、中学校（1,534）、特別支援学校（143）
- ・性別 男性（2,044）、女性（2,459）
- ・年代 20歳代（603）、30歳代（842）、40歳代（1,346）、50歳以上（1,712）
- ・立場 校長（174）、副校長（3）、教頭（198）、教務主任（195）、教諭（3,430）、養護教諭（212）、栄養教諭（12）、事務職員（182）、その他（97）
- ・担任 担任（1,793）、担任外（2,710）

3 調査期間

- 平成24年3月12日～23日

4 調査方法

- 群馬県版校務支援標準システム（C4th）による電子アンケート調査

※本調査における「校務」とは、「授業および部活動の指導を除く学校事務」のことを指します。

【結果概要】

- 1 9割以上の教職員が、平日・休日ともに時間外勤務をしており、多忙感を感じている。
- 2 校務支援システムの活用が、校務負担の軽減につながり、「時間外勤務の減少」や「授業準備（教材研究）時間の増加」「作品等を見る時間の増加」「子どもとふれ合う時間の増加」などの効果として現れている。
- 3 利用開始から年数が経過すると、負担軽減効果を感じる割合が増加する傾向が見られる。

I 調査結果

1 勤務時間外に校務をする時間

- (1) 平日の勤務時間外に校務をする時間
(家庭への持ち帰りも含む)

- ・約97%が、平日の勤務時間外に校務を行っている。
- ・「1時間以上2時間未満」が最多で、次に多いのは「2時間以上3時間未満」。
- ・「1時間以上2時間未満」と「2時間以上3時間未満」の合計は、6割を超えている。

平日の時間外校務	H23	H22	H21
0時間	3.4%	1.6%	1.2%
1時間未満	13.8%	14.8%	14.5%
1時間以上2時間未満	31.7%	32.0%	34.4%
2時間以上3時間未満	29.1%	28.7%	26.6%
3時間以上4時間未満	14.9%	14.1%	13.5%
4時間以上	7.0%	8.3%	6.9%

- (2) 休日に校務をする時間
(家庭への持ち帰りも含む)

- ・約90%の教職員が、休日にも校務を行っている。
- ・「1時間以上2時間未満」が最多で、次に多いのは「1時間未満」。
- ・「1時間未満」と「1時間以上2時間未満」の合計は、約5割。

休日の時間外校務	H23	H22	H21
0時間	10.3%	7.4%	8.8%
1時間未満	22.8%	23.7%	24.3%
1時間以上2時間未満	26.8%	28.4%	26.6%
2時間以上3時間未満	20.9%	19.8%	18.8%
3時間以上4時間未満	9.4%	10.4%	9.3%
4時間以上	9.8%	9.8%	10.8%

2 校務が忙しいと感じているか(多忙感)

- ・9割以上の教職員が多忙感を感じている。
- ・校務支援システムによって一部の校務負担が軽減されても、他の校務が多くあるため、多忙感の解消を実感するまでには至っていないと考えられる。

※「感じる」は「とても感じる」「やや感じる」の合計
「感じない」は「あまり感じない」「まったく感じない」の合計

多忙感

	H23	H22	H21
感じる	91.3%	89.6%	91.2%
感じない	8.7%	8.7%	7.7%

3 校務支援システムで処理している校務と負担軽減効果

- ・負担軽減効果を感じる校務は、**負担軽減効果を感じる割合(「とても感じる」「やや感じる」の合計)**
以下の順となっている。

- ①出席簿作成
- ②指導要録作成
- ③調査書作成
- ④通知票作成
- ⑤各種名簿作成
- ⑥文書收受
- ⑦日誌・予定表等作成
- ⑧保健統計処理
- ⑨打ち合わせ・会議等
- ⑩週案簿作成(時数集計含む)
- ⑪報告書作成
- ⑫HP作成・更新

- ・利用開始から年数が経過すると、負担軽減効果を感じる割合が増加する傾向が見られる。

利用開始年度	通知票	指導要録	調査書	出席簿	週案簿	HP
平成19年度	83.5%	87.1%	94.1%	95.8%	75.9%	44.4%
平成20年度	88.4%	93.8%	83.7%	93.5%	71.4%	58.3%
平成21年度	83.9%	88.3%	90.7%	91.7%	70.2%	56.5%
平成22年度	77.3%	84.5%	76.1%	87.4%	67.6%	55.7%
平成23年度	74.2%	77.2%	73.7%	87.7%	66.2%	59.2%
平均	78.3%	82.8%	78.8%	89.0%	66.5%	55.2%

利用開始年度	名簿	報告書	文書收受	日誌等	打合せ等	保健統計
平成19年度	88.2%	69.7%	69.0%	75.6%	66.7%	80.0%
平成20年度	82.7%	63.7%	68.0%	72.4%	66.4%	83.3%
平成21年度	81.4%	73.8%	77.7%	69.6%	71.9%	71.9%
平成22年度	72.1%	58.2%	69.4%	69.5%	68.4%	70.5%
平成23年度	73.9%	59.3%	68.0%	72.0%	65.4%	70.4%
平均	76.1%	62.4%	70.4%	69.8%	67.6%	69.7%

4 校務支援システムの活用によって生み出される時間

- ・生み出された時間は、10分未満が最多だが、30分以上増加したと感じている教職員も1割以上いる。
- ・7割以上が、子どもとのふれ合いや指導、授業準備等に当てる時間が増加したと感じている。

時間	H23
10分未満	32.1%
10分以上20分未満	15.2%
20分以上30分未満	13.3%
30分以上40分未満	7.3%
40分以上50分未満	1.1%
50分以上60分未満	1.0%
60分以上	1.5%
活用前と変わらない	28.3%

5 校務支援システムの活用による効果

- ・すべての項目において、システム活用による効果を感じている割合が増加した。
- ・システムの活用による効果は、以下の順となっている。（ ）内は平成22年度からの増減
 - ①時間外勤務の減少（+10.2P）
 - ②授業準備（教材研究）の増加（+5.9P）
 - ③作品等を見る時間の増加（+8.5P）
 - ④子どもとふれ合う時間の増加（+5.9P）
 - ⑤部活動の指導時間増加（+3.2P）

システムの活用による効果

効果	H23	H22	H21
子どもとふれ合う時間増加	14.9%	9.0%	4.8%
部活動の指導時間増加	8.5%	5.3%	2.5%
授業準備（教材研究）増加	23.7%	17.8%	9.6%
作品等を見る時間増加	20.1%	11.6%	6.1%
放課後の補習等増加	4.7%	2.4%	1.3%
時間外勤務減少	35.0%	24.8%	13.7%
その他	16.5%	13.2%	8.7%
効果は感じていない	27.2%		